

別記第1号様式（第6条関係）

倫理審査申請書

2024年 3月 27日提出

伊勢赤十字病院

倫理委員会倫理委員長 殿

申請者 加藤 三紀也



所属 薬剤部

職名 薬剤師

受付番号 FR2024-1 (※事務局で記入)

所属長の印



1 審査対象

① 実施計画

2) 出版・公表予定原稿

2 課題名

複合 AI(ChatGPT4、Gemini Pro)を活用した実務実習プログラムの構築

3 主任医療行為者名

氏名：加藤 三紀也

所属：薬剤部

職名：薬剤師

4 分担医療行為者名

氏名：八重 徹司

所属：鈴鹿医療科学大学 職名：薬剤師

5 医療行為等の概要

薬学実務実習に関するガイドラインが令和4年に改定となった。新ガイドラインに沿った実習内容を臨床現場へ導入することを目的として、複数の大規模言語モデルを用いて評価ルーブリックの各段階に対する実習内容の生成を検討する。

6 医療行為等の対象及び実施場所

非ステロイド性抗炎症薬が投与されている高齢の関節痛患者における薬剤性腎障害の早期発見を実習課題とし、複合 AI (ChatGPT4、Gemini Pro) を使用する。

注意事項 審査対象となる実施計画書又は出版公表原稿のコピーを添付して下さい。

7 医療行為における医学倫理的配慮について（Ⅰ～Ⅴは必ず記載のこと）

Ⅰ 医療行為の対象となる個人の人権の擁護

本研究において実患者への介入はない。

Ⅱ 医療行為の対象となる者に理解を求め同意を得る方法

① オプトアウト¹

② 書面による同意

③ その他（ ）

Ⅲ 医療行為により生じる個人への不利益並びに危険性

なし

Ⅳ 予測される医学上の貢献

複合 AI を活用して臨床現場における実務実習ガイドラインに沿った実習内容を検討することができる。実習内容を生成させブラッシュアップすることで薬剤師業務の一助となることが考えられる。

Ⅴ その他（研究期間、症例数等）

なし

¹ 患者への侵襲がなく、個人が特定されることのない方法で実施される研究については、病院 HP 上で研究名を公知し、研究への不参加の意思を病院あてに通知する窓口が整備されていることをもって、患者から同意を得たこととする制度

研究実施計画書

<課題名>

複合 AI(ChatGPT4、 Gemini Pro)を活用した実務実習プログラムの構築

<目的>

臨床における実務実習に関するガイドライン（令和4年度改訂版対応；以下、新ガイドライン）が令和5年12月に薬学教育協議会より提示された。標準的な実習内容や評価ルーブリックも例示として新ガイドラインに記載されているが、臨床現場に導入するためには、具体的な実習内容を実習生に提示する必要がある。そこで本研究では、複数の大規模言語モデル（LLM）を用い、評価ルーブリックの各段階に対応する実習内容の生成を行うこととする。

<方法>

非ステロイド性抗炎症薬（NSAIDs）が投与されている高齢の関節痛患者における薬剤性腎障害（AKI）の早期発見を実習課題とする。LLMには、GPT4（Open AI）と Gemini（Google LLC）を使用する。Hallucination 軽減対策として、インターネットで公開してある情報（薬剤性腎障害診療ガイドライン）をプロンプトに組み込む。

別記第1号様式（第6条関係）

倫理審査申請書

2024年 3月 27日提出

伊勢赤十字病院

倫理委員会倫理委員長 殿

申請者 加藤 三紀也



所属 薬剤部

職名 薬剤師

受付番号 ER2024-2 (※事務局で記入)

所属長の印



1 審査対象

① 実施計画

2) 出版・公表予定原稿

2 課題名

骨折リエゾンチームにおける薬剤師の関わり

3 主任医療行為者名

氏名：加藤 三紀也 所属：薬剤部 職名：薬剤師

4 分担医療行為者名

氏名： 所属： 職名：

5 医療行為等の概要

骨折リエゾンチームにおいて薬剤師が活用している、評価テンプレートおよび薬剤選択フローチャートによる業務効率化について検討を行う。

6 医療行為等の対象及び実施場所

大腿骨近位部骨折で手術適応となり、骨折リエゾンチームにて介入した患者を対象とする。

注意事項 審査対象となる実施計画書又は出版公表原稿のコピーを添付して下さい。

7 医療行為における医学倫理的配慮について（Ⅰ～Ⅴは必ず記載のこと）

Ⅰ 医療行為の対象となる個人の人権の擁護

患者の治療状況は電子カルテを用いレトロスペクティブに調査を行い、患者は特定できないよう十分配慮した。

Ⅱ 医療行為の対象となる者に理解を求め同意を得る方法

①オプトアウト¹

②書面による同意

③その他（ ）

Ⅲ 医療行為により生じる個人への不利益並びに危険性

後方視的な調査研究であり、本調査が患者に対して不利益並びに危険性を及ぼすことはない。

Ⅳ 予測される医学上の貢献

薬剤師による、評価テンプレートおよび薬剤選択フローチャートの活用を調査することでチーム活動の業務効率化を検討することができる。これにより骨折リエゾンチームにおける薬剤師の介入を評価することが可能であると考えられる。

Ⅴ その他（研究期間、症例数等）

研究期間：2023年4月～2024年3月

大腿骨近位部骨折手術適応 267件

¹ 患者への侵襲がなく、個人が特定されることのない方法で実施される研究については、病院 HP 上で研究名を告知し、研究への不参加の意思を病院あてに通知する窓口が整備されていることをもって、患者から同意を得たこととする制度

研究実施計画書

<課題名>

骨折リエゾンチームにおける薬剤師の関わり

<目的>

骨折リエゾンチームにおける薬剤師の役割として、骨粗鬆症治療薬の提案や治療薬開始後の服薬指導などの薬学的な管理がある。当院の骨折リエゾンチームでは週1回カンファレンスを実施しているが、人員不足もあり事前の患者情報の収集などが難しく、効率的なチーム活動への参加が求められる。また、2名の薬剤師がチームへ参加していることから薬剤師間で提案内容が異なるケースもあり、治療薬提案の標準化が必要である。円滑なチーム活動を目的とした薬剤師の介入について報告する。

<方法>

チームにおける薬剤師の取り組みとして、カンファレンスで使用する評価テンプレートを作成し、カンファレンスへ向けた評価テンプレートの事前入力を行った。評価テンプレートは、患者基本事項、検査値、歯科受診歴、骨粗鬆症治療薬使用状況、薬剤師からの薬剤提案内容を入力する運用とした。薬剤選択フローチャートは腎機能、血清補正Ca値を考慮した内容で作成し担当薬剤師間で情報共有を行った。

別記第 1 号様式（第 6 条関係）

倫 理 審 査 申 請 書

2024 年 4 月 10 日提出

伊勢赤十字病院
倫理委員会倫理委員長 殿

申請者 大森教成
所 属 救急部
職 名 部長



受付番号 EP2024-6 (※事務局で記入)

	所属長の印
1 審査対象 1) 実施計画	
2 課題名 「Rapid Response System (RRS) データレジストリーに関する多機関共同研究」	
3 主任医療行為者名 氏名：藤谷茂樹 所属：聖マリアンナ医科大学病院 職名：主任教授	
4 分担医療行為者名 氏名：大森教成 所属：救急部 職名：部長	
5 医療行為等の概要 RRS が起動された症例について症例登録を行う	
6 医療行為等の対象及び実施場所 院内（外来部門・入院部門）で RRS を起動された症例が対象	

注意事項 審査対象となる実施計画書又は出版公表原稿のコピーを添付して下さい。

7 医療行為における医学倫理的配慮について（Ⅰ～ⅤⅣは必ず記載のこと）

Ⅰ 医療行為の対象となる個人の人権の擁護

個人を特定出来る情報を除外した形でデータ抽出しレジストリ登録を行う。

患者の個人情報とは無関係なレジストリ管理番号を付した患者リストを作成し、各施設で鍵のついた引き出しで管理をする。

Ⅱ 医療行為の対象となる者に理解を求め同意を得る方法

①オプトアウト¹

Ⅲ 医療行為により生じる個人への不利益並びに危険性

本研究は観察研究であり、研究対象者に危険性はない。経過に介入しないため治療上の不利益は生じない

Ⅳ 予測される医学上の貢献

RRS 運用により死亡率が低下するかなど本邦でのエビデンスの確立

Ⅴ その他（研究期間、症例数等） *未定の場合は見込みを記入すること

研究期間： ～2028 年 10 月 31 日

症例数等：目標約 30000 症例

¹ 患者への侵襲がなく、個人が特定されることのない方法で実施される研究については、病院 HP 上で研究名を公知し、研究への不参加の意思を病院あてに通知する窓口が整備されていることをもって、患者から同意を得たこととする制度

2024 年 3 月 29 日

審 査 結 果 通 知 書

多機関共同研究 研究責任者 殿

聖マリアンナ医科大学
学長 北 川 博 昭

さきに貴殿より申請のあった臨床試験について生命倫理委員会で審議し、下記のとおり判定したので報告する。

記

承認番号	第 2498 号 (B30)	審査機関	臨床試験部会
申請種類	変更申請		
変更承認日	2024 年 3 月 29 日		
課 題 名	Rapid Response System(RRS)データレジストリーに関する 多機関共同研究		
実施の期間	承認後 ～ 2028 年 10 月 31 日		
代表機関	聖マリアンナ医科大学		
判定の結果	承 認		
変更事項	●共同研究機関追加及び削除 ●共同研究機関研究責任者変更 ●オプトアウト文書(本学用)改訂 ●オプトアウト文書(多機関用)改訂 ●研究実施計画書別紙 作成日：2024 年 3 月 6 日		
備考			

別記第 1 号様式（第 6 条関係）

倫 理 審 査 申 請 書

令和 6 年 4 月 15 日提出

伊勢赤十字病院

倫理委員会倫理委員長 殿

申請者 村林 桃士

所 属 消化器内科

職 名 副部長



受付番号 PR2024-7 (※事務局で記入)

所属長の印



1 審査対象

1) 実施計画

2) 出版・公表予定原稿

(第 60 回 日本胆道学会学術集会等での発表予定)

(発表予定日： 2024 年 10 月 10 日)

2 課題名

悪性遠位胆管閉塞に対する新型 2 層構造チューブステントの使用成績

3 主任医療行為者名

氏名： 村林 桃士

所属： 消化器内科

職名：副部長

4 分担医療行為者名

氏名：全ての消化器内科医師

所属： 消化器内科

職名：部長・副部長・医師

5 医療行為等の概要

2020 年 4 月から 2024 年 3 月に悪性遠位胆管閉塞に対してチューブステント留置を行った症例について、後ろ向きに、成績などを検討する（詳細は別紙の抄録を参照）。

6 医療行為等の対象及び実施場所

当院において 2022 年 4 月から 2024 年 3 月に、チューブステント留置を行った悪性遠位胆管閉塞の症例。

注意事項 審査対象となる実施計画書又は出版公表原稿のコピーを添付して下さい。

7 医療行為における医学倫理的配慮について（I～Vは必ず記載のこと）

I 医療行為の対象となる個人の人権の擁護

後ろ向き研究であり、対象患者に対する人権の侵害は皆無である。また、住所・氏名など個人を特定するような個人情報に含まれていない。

II 医療行為の対象となる者に理解を求め同意を得る方法

①オプトアウト¹

②書面による同意

③その他（ ）

III 医療行為により生じる個人への不利益並びに危険性

後ろ向き研究であり、対象患者に対する個人への不利益や危険性を生じさせる可能性は皆無である。

IV 予測される医学上の貢献

学会発表を行うことにより、全世界の医療の質の向上・発展に寄与できる可能性がある。

V その他（研究期間、症例数等）

研究期間：2020年4月～2024年3月。

症例数等：62例（最終解析での症例数は、マイナーな変更ありうる）

（詳細は別紙の抄録を参照されたい）

¹ 患者への侵襲がなく、個人が特定されることのない方法で実施される研究については、病院 HP 上で研究名を公開し、研究への不参加の意思を病院あてに通知する窓口が整備されていることをもって、患者から同意を得たこととする制度

別記第 1 号様式 (第 6 条関係)

倫 理 審 査 申 請 書

2024 年 4 月 19 日提出

伊勢赤十字病院

倫理委員会倫理委員長 殿

申請者 奥田 結香 

所 属 医療技術部 放射線技術課

職 名 診療放射線技師

受付番号 FP2024-8 (※事務局で記入)

所属長の印 	
1 審査対象	*何れかに○を付けてください。
① 実施計画	
2) 出版・公表予定原稿 (発表予定日: 年 月 日)	
2 課題名	*未定の場合も「～(仮)」として記載ください。
大腿骨近位部骨折における CT 値計測による骨折リスク評価の検討	
3 主任医療行為者名	
氏名: 奥田 結香 所属: 医療技術部 放射線技術課 職名: 診療放射線技師	
4 分担医療行為者名	
氏名: 倉田 隆介 所属: 整形外科 職名: 医師	
氏名: 中西 健太 所属: 医療技術部 放射線技術課 職名: 診療放射線技師	
5 医療行為等の概要	*研究の内容についてご記載ください。
当院では、大腿骨近位部骨折患者の骨折リスク評価に関し、骨密度検査を使用して行っている。本研究では、大腿骨近位部骨折患者の術前 CT 検査において、健側側の CT 値の計測を行い、術後骨密度検査で得られる若年成人平均値 (YAM: Young Adult Mean) および骨密度 (BMD: Bone Density) との相関関係を検証した。	
6 医療行為等の対象及び実施場所	*研究対象者・データ等についてご記載ください。
当院で大腿骨近位部骨折にて受診した患者のうち、術前 CT 検査と術後骨密度検査をともに実施した 103 症例を対象とし、後方視的に解析した。検査場所は当院放射線技術課 CT 室、装置は GE 社製 LightSpeed VCT、Discovery CT750HD、Revolution Maxima、画像処理解析装置は FUJIFILM 社製 SYNAPSE VINCENT を使用した。	

注意事項 審査対象となる実施計画書又は出版公表原稿のコピーを添付して下さい。

~~審査対象欄は、非該当部分を消して下さい。~~

7 医療行為における医学倫理的配慮について（I～Vは必ず記載のこと）

I 医療行為の対象となる個人の人権の擁護

個人が特定される様な情報は掲載しない。

II 医療行為の対象となる者に理解を求め同意を得る方法

※いずれかを○で囲んでください。

① オプトアウト¹

② 書面による同意

*同意書のひな型を添付ください。

③ その他（ ）

III 医療行為により生じる個人への不利益並びに危険性

特になし。

IV 予測される医学上の貢献

CT 検査にて骨折リスクおよび骨粗鬆症の程度を評価する事が出来る。

V その他（研究期間、症例数等） *未定の場合は見込みを記入すること

研究期間：2023 年 11 月 1 日～2024 年 3 月 31 日

症例数等：103 症例

¹ 患者への侵襲がなく、個人が特定されることのない方法で実施される研究については、病院 HP 上で研究名を公知し、研究への不参加の意思を病院あてに通知する窓口が整備されていることをもって、患者から同意を得たこととする制度

1	審査対象 症例報告	(発表予定日 R6年11月2～4日) *発表予定日未定の場合は未定と記載
2	課題名 疼痛コントロール不良の明細胞肉腫に対して、オピオイドに加えてケタミン持続静注併用が有効であった一例	
3	症例報告実施者 氏名：小山 雅敏 所属：薬剤部 職名：薬剤師	
4	症例報告の概要 10代男性、明細胞肉腫の患者。今回、疼痛の悪化で入院となった。オピオイドとして塩酸モルヒネ持続静注 48mg/日とフェンタニル貼付剤 4mg/日、非オピオイド性鎮痛薬及び鎮痛補助薬を用いても十分な疼痛コントロールが得られていなかった。そこでケタミン持続静注を併用したところ、既存のオピオイドを増量することなく疼痛コントロールが得られ、自宅退院に繋ぐことができた。	
5	医療行為における医学倫理的配慮について（Ⅰ～Ⅴは必ず記載のこと） Ⅰ 医療行為の対象となる個人の人權の擁護 特定の個人を識別することができる記述等は記載しない。 Ⅱ 医療行為の対象となる者に理解を求め同意を得る方法 ※いずれかを○で囲んでください。 ①オプトアウト ②書面による同意 *同意書のひな型を添付ください。 ③その他（ ） Ⅲ 医療行為により生じる個人への不利益並びに危険性 電子カルテでの調査であり、患者の負担や不利益となる医療行為は発生しない。	

IV 予測される医学上の貢献

がん疼痛の薬物療法に関するガイドラインにおいて、オピオイドに加えてのケタミン併用は、十分な鎮痛効果が得られない、または有害事象のため既存の鎮痛薬を増量できない時に推奨されており、有効性を示す報告が散見される。その一方で、臨床研究やケースレポートの報告は少なく、益と害を評価するためのエビデンスが十分ではない。希少がんである明細胞肉腫における難治性疼痛に対するケタミン持続静注を使用した報告はなく、新たな有効性を示すことができるのではないかと考えている。今回の症例報告は日本医療薬学会年会での発表を予定している。

V その他（症例数等） *未定の場合は見込みを記入すること

症例数等：1例

注意事項 審査対象となる症例報告原稿のコピーを添付して下さい。

別記第 1 号様式（第 6 条関係）

倫 理 審 査 申 請 書

2024 年 4 月 22 日提出

伊勢赤十字病院

倫理委員会倫理委員長 殿

申請者 倉井 千裕



所 属 4B 病棟

職 名 看護係長

受付番号 EP2024-11 (※事務局で記入)

所属長の印	
-------	--

1 審査対象	*何れかに○を付けてください。
1) 実施計画	
(2) 出版・公表予定原稿	
(発表予定日：2024 年 10 月 4・5 日 第 24 回日本クリニカルパス学会学術集会)	
2 課題名	*未定の場合も「～（仮）」として記載ください。
多職種による誤嚥性肺炎クリニカルパス新規作成の試み	
3 主任医療行為者名	
氏名：倉井 千裕	所属：4B 病棟 職名：看護係長
4 分担医療行為者名	
氏名：松尾 吉津	所属：看護部 職名：看護師長
5 医療行為等の概要	*研究の内容についてご記載ください。
【実践報告】2023 年度、クリニカルパスの適正な運用および診療の質の向上をめざし、A 病院クリニカルパス委員会および看護部基準・手順・パス委員会、さらには看護係長プロジェクトが協働してクリニカルパス運用の基盤整備に取り組んだ。その過程において看護係長プロジェクトがアウトカム語句の整理・統一を行い、その成果を用いて院内の多職種で構成されたワーキンググループにより新規クリニカルパスを作成した。対象には診療科を超えて入院する疾患であり、退院調整およびリハビリテーションの介入において課題がある誤嚥性肺炎を選択した。2023 年 11 月より作成に取り組み、1 カ月間の試行を経て 2024 年 3 月より本格運用を開始した。	
6 医療行為等の対象及び実施場所	*研究対象者・データ等についてご記載ください。
A 病院のイントラネットおよび電子カルテサーバー内に保存されたクリニカルパスのマスターデータ、パス適用率、内科系 DPC II 超の分布などの統計データ	

注意事項 審査対象となる実施計画書又は出版公表原稿のコピーを添付して下さい。

7 医療行為における医学倫理的配慮について（Ⅰ～ⅤⅣは必ず記載のこと）

Ⅰ 医療行為の対象となる個人の人權の擁護

得られたデータおよび関連資料は、守秘義務を遵守する。本実践報告においては患者名や ID が特定されるデータは使用しないが、関連データは施錠可能で移動が不可能な引き出しに保管し、報告以外の目的で使用しない。電子媒体には暗証番号を設定して保存する。報告終了後は、すべてのデータ・関連資料を消去・破棄する。

Ⅱ 医療行為の対象となる者に理解を求め同意を得る方法

※いずれかを○で囲んでください。

①オプトアウト¹

②書面による同意

*同意書のひな型を添付ください。

③その他（同意説明書で十分に説明した後、アンケート回答をもって
同意と見なす）

Ⅲ 医療行為により生じる個人への不利益並びに危険性

該当しない

Ⅳ 予測される医学上の貢献

本報告は当院におけるクリニカルパスの適正な運用および診療の質の向上における一助となる。

Ⅴ その他（研究期間、症例数等） *未定の場合は見込みを記入すること

実施期間：2023 年 4 月～2024 年 3 月

¹ 患者への侵襲がなく、個人が特定されることのない方法で実施される研究については、病院 HP 上で研究名を公知し、研究への不参加の意思を病院あてに通知する窓口が整備されていることをもって、患者から同意を得たこととする制度

別記第 1 号様式（第 6 条関係）

倫 理 審 査 申 請 書

令和 6 年 4 月 22 日提出

伊勢赤十字病院

倫理委員会倫理委員長 殿

申請者 上部 真嗣



所 属 医療社会事業課

職 名 社会福祉士

受付番号 EP2024-12 (※事務局で記入)

	所属長の印
1 審査対象 *何れかに○を付けてください。 1) 実施計画 日本病院学会で発表 2) 出版・公表予定原稿 (発表予定日：R6 年 7 月 4.5.日)	
2 課題名 *未定の場合も「～(仮)」として記載ください。 救急外来における社会的支援が必要な患者への MSW 介入とその効果について	
3 主任医療行為者名 氏名：上部 真嗣 所属：医療社会事業課 職名：社会福祉士	
4 分担医療行為者名 氏名：鈴木 貴子、藤井 典善、宇薄 拓哉、西井 舞、二ノ宮 美乃里、畑 蒼、田口 良、脇海道友美 所属：医療社会事業課 職名：社会福祉士 氏名：渡司 雄大 所属：救急外来 職名：看護師	
5 医療行為等の概要 *研究の内容についてご記載ください。 以前から社会的側面で介入必要な患者には MSW が介入していたが、夜間に帰宅した患者の情報は外来止まりで問題点を整理・解決できないままであった。その対策として救急外来看護師と MSW とで社会的側面での介入や地域への調整が必要な患者へのアプローチを積極的に行うようになり、頻回受診の抑制や地域での支援につなげることができている。また脳神経外科患者で救急外来時から介入する症例もあり、それらの分析を行い、取り組みの振り返りと今後の救急患者への支援の一指標とする。	
6 医療行為等の対象及び実施場所 *研究対象者・データ等についてご記載ください。 平成 31 年 4 月～令和 6 年 3 月の救急外来にて支援した全 783 例、脳神経外科患者で入院し介入した症例の中で当日救急外来にて対応した 31 例、計 814 例を分析	

7 医療行為における医学倫理的配慮について（Ⅰ～ⅤⅣは必ず記載のこと）

Ⅰ 医療行為の対象となる個人の人權の擁護

個人が特定されないよう配慮する

Ⅱ 医療行為の対象となる者に理解を求め同意を得る方法

※いずれかを○で囲んでください。

☒ ① オプトアウト¹

② 書面による同意

*同意書のひな型を添付ください。

③ その他（ ）

Ⅲ 医療行為により生じる個人への不利益並びに危険性

不利益はなし

Ⅳ 予測される医学上の貢献

① 救急外来患者への早期介入モデル

② 地域との連携の強化

③ 頻回受診の抑制方法検討

Ⅴ その他（研究期間、症例数等） *未定の場合は見込みを記入すること

研究期間：平成31年4月1日～令和4年3月31日

症例数等：平成31年4月1日～令和2年3月31日 99例

令和 2年4月1日～令和3年3月31日 130例

令和 3年4月1日～令和4年3月31日 166例

令和 4年4月1日～令和5年3月31日 191例

令和 5年4月1日～令和6年3月31日 197例 計783例

平成31年4月1日～令和6年3月31日 31例

合計814例

¹ 患者への侵襲がなく、個人が特定されることのない方法で実施される研究については、病院HP上で研究名を公知し、研究への不参加の意思を病院あてに通知する窓口が整備されていることをもって、患者から同意を得たこととする制度

倫理審査申請書

R6年4月24日提出

伊勢赤十字病院

倫理委員会倫理委員長 殿

申請者 福家 智仁
所属 頭頸部耳鼻咽喉科
職名 医師

受付番号 FR2024-15 (※事務局で記入)

所属長の印



1 審査対象

症例報告

(発表予定日 未定) *発表予定日未定の場合は未定と記載

2 課題名

*未定の場合も「～(仮)」として記載ください。

耳小骨の転移に伴う先天性耳小骨奇形症例

3 症例報告実施者

氏名: 福家 智仁 所属: 頭頸部耳鼻咽喉科 職名: 医師

4 症例報告の概要

通常の耳小骨奇形とは異なり、部位の異常をみとめ、その病態について考察した。

5 医療行為における医学倫理的配慮について(I～VIVは必ず記載のこと)

I 医療行為の対象となる個人の権利の擁護

特定できない様に配慮している

II 医療行為の対象となる者に理解を求め同意を得る方法

※いずれかを○で囲んでください。

①オプトアウト

②書面による同意

*同意書のひな型を添付ください。

③その他()

III 医療行為により生じる個人への不利益並びに危険性

特になし

IV 予測される医学上の貢献

耳小骨奇形成因についての新たな知見を与える。

V その他(症例数等)

*未定の場合は見込みを記入すること

症例数等: 1例

注意事項 審査対象となる症例報告原稿のコピーを添付して下さい。

倫理審査申請書

R6年4月24日提出

伊勢赤十字病院

倫理委員会倫理委員長 殿

申請者 福家智仁
所属 頭頸部,耳鼻咽喉科
職名 医師

受付番号 EP2024-14 (※事務局で記入)

所属長の印



1 審査対象

症例報告

(発表予定日 未定) *発表予定日未定の場合は未定と記載

2 課題名

*未定の場合も「～(仮)」として記載ください。

両側反回神経麻痺を回避するため計画的staged Thyroidectomyを選択した両側反回神経浸潤に伴う甲状腺乳頭癌

3 症例報告実施者

氏名: 福家智仁 所属: 頭頸部,耳鼻咽喉科 職名: 医師

4 症例報告の概要

両側反回神経麻痺のリスクである甲状腺乳頭癌を一回で全摘するのでなく二期的に半分ずつ摘ぶことで気管切開を回避できた症例についての報告。

5 医療行為における医学倫理的配慮について(I～VIVは必ず記載のこと)

I 医療行為の対象となる個人の人権の擁護

特定されない様に配慮している。

II 医療行為の対象となる者に理解を求め同意を得る方法

※いずれかを○で囲んでください。

①オプトアウト

②書面による同意

*同意書のひな型を添付ください。

③その他()

III 医療行為により生じる個人への不利益並びに危険性

特になし。

IV 予測される医学上の貢献

気管切開を不要とする点で、また症例報告することにより甲状腺全摘でなく他の方法があることを啓蒙できる。

V その他(症例数等) *未定の場合は見込みを記入すること

症例数等: / 1例

注意事項 審査対象となる症例報告原稿のコピーを添付して下さい。